

令和2年度 1学期終業式(全日制) 校長式辞

まずは、新型コロナウイルスに関連することの話をします。

現在、愛知県知事から県民に対して「厳重警戒」のお願いがされています。明日から夏休みとなりますが、不要不急の外出を避け、規則正しい生活習慣を心がけてください。また、毎日体温を測るなどして健康管理に努めてください。

公式戦が予定されている部活動は、マスクの着用、手洗いの徹底、3密を避ける行動をとって、100%の力が発揮できるようにしましょう。

先週、女子バレーボール部が、尾張支部大会で3位となり県大会出場を決めました。しかし、新型コロナウイルスの影響で県大会が中止となり、大変残念な思いです。

これから、いくつかの競技で大会開催に影響を与えるかもしれませんが、ベストな状態で臨めるよう、しっかり練習しておいてください。

さて、話は変わりますが、今週の水曜日、2年5組で英語科、本多泉美先生の研究授業がありました。その授業の中で「仮定法：If(もし～ならば)」を使った英文を書くという時間がありました。

「もし、コロナがなかったら…」という文のあとに、自分自身で文を作成するのですが、私が考えたのは、「もし、コロナがなかったら…」「東京オリンピックが楽しめたのに…」という文でした。

本来なら、7月24日に開会式が行われ、各競技が始まっていたはず。私もチケットが当たり、楽しみにしていたので、残念な思いでいっぱいです。でも、一番つらかったのはオリンピックを目指していた選手です。

延期が決まったとき、昨年のラグビーワールドカップで活躍した福岡 堅樹選手は、「医者になる」という目標に向かうため、日本代表を辞退しました。

一方でけがをした選手、例えば右肘を骨折した競泳の萩野 公介選手、前回のリオデジャネイロオリンピック400m個人メドレーで金メダルを獲得した選手や、アキレス腱を断裂した体操の寺本 明日香選手、小牧市出身で日本代表のキャプテンとして活躍していた選手は、けがを回復させる時間がとれ、東京オリンピックに出場できるチャンスが生まれました。

来年の7月23日に開幕が予定されている東京オリンピック、1年前のセレモニーで白血病からの復帰を目指す競泳の池江 璃花子選手が、「オリンピックへの思い」を次のようなメッセージで発信しました。その一部を紹介します。

「TOKYO 2020。今日、ここから始まる1年を単なる1年の延期ではなく、「プラス1」と考える。それはとても、未来志向で前向きな考え方だと思いました。もちろん、世の中がこんな大変な時期に、スポーツの話をする事自体、否定的な声があることもよくわかります。ただ、一方で思うのは、逆境からはい上がっていく時には、どうしても希望の力が必要だということです。希望が、遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくても、前を向いて頑張れる。私の場合、もう一度プールに戻りたい、その一心でつらい治療を乗り越えることができました。世界中のアスリートとアスリートから勇気をもらっている全ての人のために。1年後の今日、この場所で希望の炎が、輝いてほしいと思います。」

近代オリンピックの創設者クーベルタンは、「スポーツは若者の肉体と精神を鍛えることができる。」また、「私は信じている。オリンピックは世界平和に貢献するだろう。」と言っています。

昨日、1年1組で実施された英語の江口瑠璃先生の研究授業で使用されたプリントの内容です。1年生は、この英文がわかりますよね。

現在、新型コロナウイルスの感染が、日本だけでなくアメリカやブラジルなど、世界各国で拡大しています。

これから、東京オリンピックの開催が、また、新型コロナウイルスの感染拡大が、どうなるかわかりませんが、私たちは「今を全力で生きる！」しかないと考えています。

「その瞬間（とき）、最強であれ！」 私の尊敬する人物の言葉です。

「どのような立場になっても、どのようなときでも、どのようなことでも、これだけは自分は絶対に果たすのだという自信と責任をもて！」というメッセージです。

「その瞬間（とき）、最強であれ！」

「I can do it!」 「You can do it!」

例年より短い夏休みですが、目標（Goal）を掲げて「とりあえず挑戦」してください。

それでは、8月24日に素敵な笑顔でみなさんに会えること願って、1学期終業式の式辞とします。